


# 2017年3月期 第2四半期決算概要



日進工具株式会社

2016年10月31日  
(証券コード6157)

# 目次

<b>1. 2017年3月期2Qの業績</b>	P. 2	・・・	第2四半期決算の概要
	P. 3	・・・	営業利益の増加要因
	P. 4	・・・	損益計算書サマリー
	P. 5	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 6	・・・	四半期業績推移
<hr/>			
<b>2. 2017年3月期の業績予想見通し</b>	P.12	・・・	業績予想見通し
	P.13	・・・	第2四半期における進捗状況
	P.14	・・・	2017年3月期の重点戦略
	P.15	・・・	配当予想
<hr/>			
<b>&lt; 参考資料 &gt;</b>	P.16	・・・	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.17	・・・	株価推移とバリュエーション
	P.18	・・・	I R 情報サイトのご案内

## 第2四半期決算の概要

売上高経常利益率は25.3%と高い水準

(百万円)

	2016年3月期 2Q累計	2017年3月期 2Q累計	通期予想	進捗率
売上高	4,104 ( +15.7% )	4,421 ( +7.7% )	8,480 ( +1.2% )	52.1%
営業利益	974 ( +36.2% )	1,109 ( +13.8% )	1,940 ( +1.3% )	57.2%
経常利益	1,007 ( +34.0% )	1,119 ( +11.1% )	1,980 ( +1.3% )	56.5%
四半期純利益	670 ( +38.7% )	751 ( +12.1% )	1,350 ( +0.5% )	55.7%

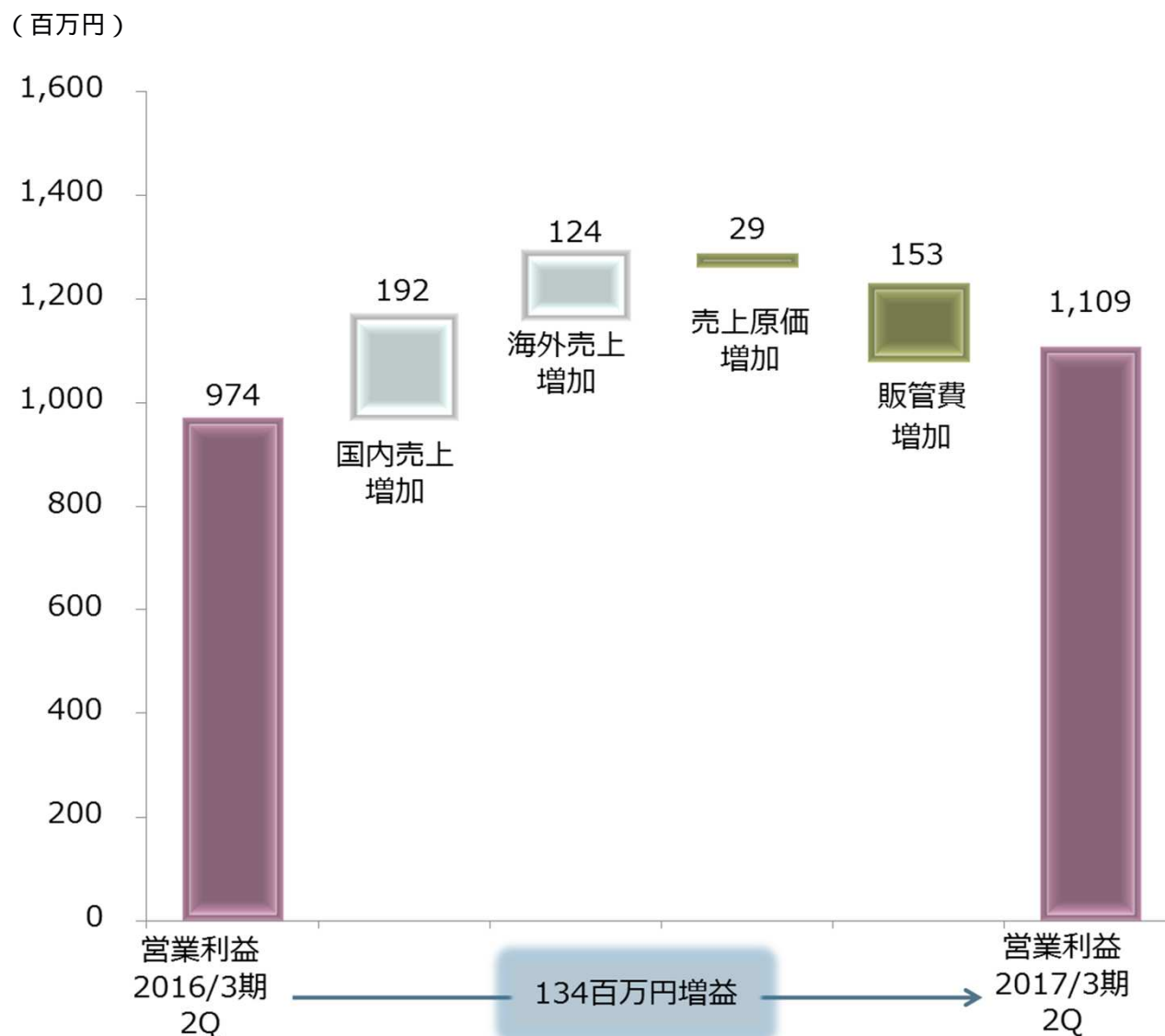
( )内は前年同期比増減率

円高による輸出企業の採算悪化やそれに伴う設備投資の抑制等から、工具需要全体としてはやや弱含みとなったものの、小径エンドミルは車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ、概ね順調に推移した。夏場にかけては、スマートフォンの新機種向け需要の一巡からやや減速となったが、日進工具香港（連結子会社）の連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生するため、7-9月の連結売上高は4-6月を若干上回った。

第2四半期累計の連結売上高は、前年同期比7.7%増の4,421百万円、連結経常利益は同11.1%増の1,119百万円。

売上高経常利益率は25.3%となり、前年同期の24.6%から0.7ポイント向上。

# 営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期比192百万円、6.1%のアップ、また海外売上高は同124百万円の13.2%アップとなった。なお売上高全体では317百万円、7.7%の増加であった。

317百万円の売上高増加に対して、売上原価は29百万円の増加。前期まで非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や期首に比べ製品在庫が68百万円増加した影響等により、売上の増加に対して原価の増加が抑えられた。

営業利益は134百万円、13.8%の増加、売上高営業利益率は1.3ポイント上昇し25.1%となった。

# 損益計算書サマリー

(百万円)

	2016年3月期 2Q累計	2017年3月期 2Q累計	前年同期比	コメント
売上高	4,104	4,421	+7.7%	工具需要全体としてはやや弱含みとなったものの、小径エンドミルは車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ、概ね順調に推移。
売上総利益 (率)	2,157 (52.6%)	2,445 (55.3%)	+13.3%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や製品在庫の増加等により、売上総利益率は55.3%に上昇。
販管費 (率)	1,182 (28.8%)	1,335 (30.2%)	+13.0%	営業人員の強化、新工場棟竣工記念行事、ブランディング施策等から販売管理費が増加。
営業利益 (率)	974 (23.8%)	1,109 (25.1%)	+13.8%	販売管理費が増加したものの、売上総利益の増加により営業利益は13.8%増加。
経常利益 (率)	1,007 (24.6%)	1,119 (25.3%)	+11.1%	前年同期に比べ営業外収益が減少したものの、営業利益の増加により経常利益は同11.1%増加。
四半期純利益 (率)	670 (16.3%)	751 (17.0%)	+12.1%	
設備投資額	483	366	-24.3%	前期は新工場棟の竣工に向け、機械設備の導入を通常よりも増加させたが、当期は通常に戻している。
減価償却費	221	295	+33.3%	前期の新工場棟建設や設備の積極導入により、当期の減価償却費は上昇。
従業員数	280人	317人	+13.2%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことに加え、営業や工場で人員強化のため中途採用を実施。

( )は売上高に対する比率

# 貸借対照表サマリー

(百万円)

	2016年 3月期	構成比	2017年 3月期2Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	6,978	61.4%	7,492	62.4%	+7.4%
現金及び預金	3,898	34.3%	4,324	36.0%	+10.9%
受取手形及び売掛金	1,332	11.7%	1,358	11.3%	+1.9%
棚卸資産	1,467	12.9%	1,550	12.9%	+5.7%
固定資産	4,393	38.6%	4,507	37.6%	+2.6%
有形固定資産	3,893	34.2%	4,024	33.5%	+3.4%
無形固定資産	147	1.3%	134	1.1%	-8.6%
投資その他の資産	353	3.1%	348	2.9%	-1.2%
資産合計	11,371	100.0%	12,000	100.0%	+5.5%
(負債の部)					
流動負債	1,355	11.9%	1,382	11.5%	+2.0%
買掛金	272	2.4%	246	2.1%	-9.6%
固定負債	446	3.9%	457	3.8%	+2.6%
負債合計	1,802	15.8%	1,840	15.3%	+2.1%
(純資産の部)					
純資産合計	9,569	84.2%	10,159	84.7%	+6.2%
負債・純資産合計	11,371	100.0%	12,000	100.0%	+5.5%

流動資産は、現預金や棚卸資産の増加により前年度末比7.4%増加。

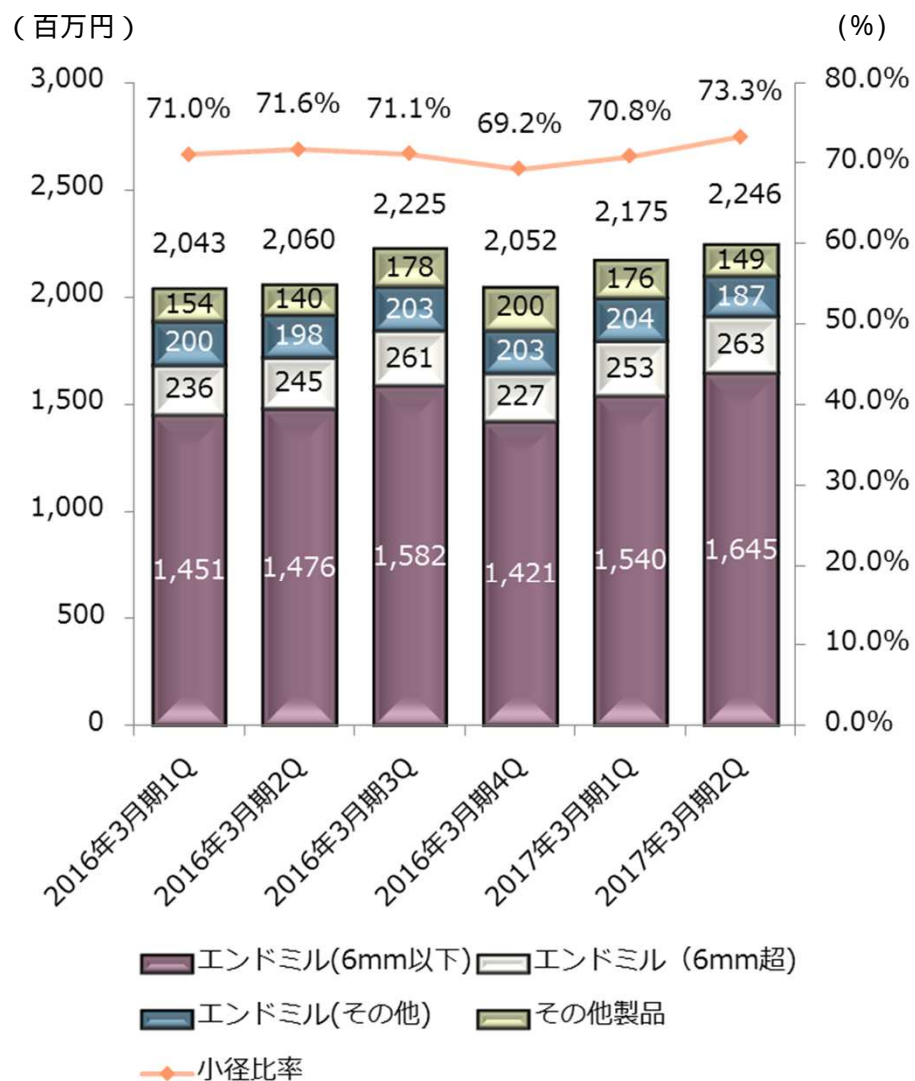
固定資産は、機械設備の増加を主因に同2.6%増加。

負債は、その他流動負債の増加等から同2.1%増加。

純資産は、利益剰余金の増加等から同6.2%増加、自己資本比率は84.7%となり0.5ポイントアップ。

# 四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

## 製品別売上高と小径比率の推移



円高による輸出企業の採算悪化やそれに伴う設備投資の抑制等から、工具需要全体としてはやや弱含みとなったものの、小径エンドミルは車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ、概ね順調に推移した。

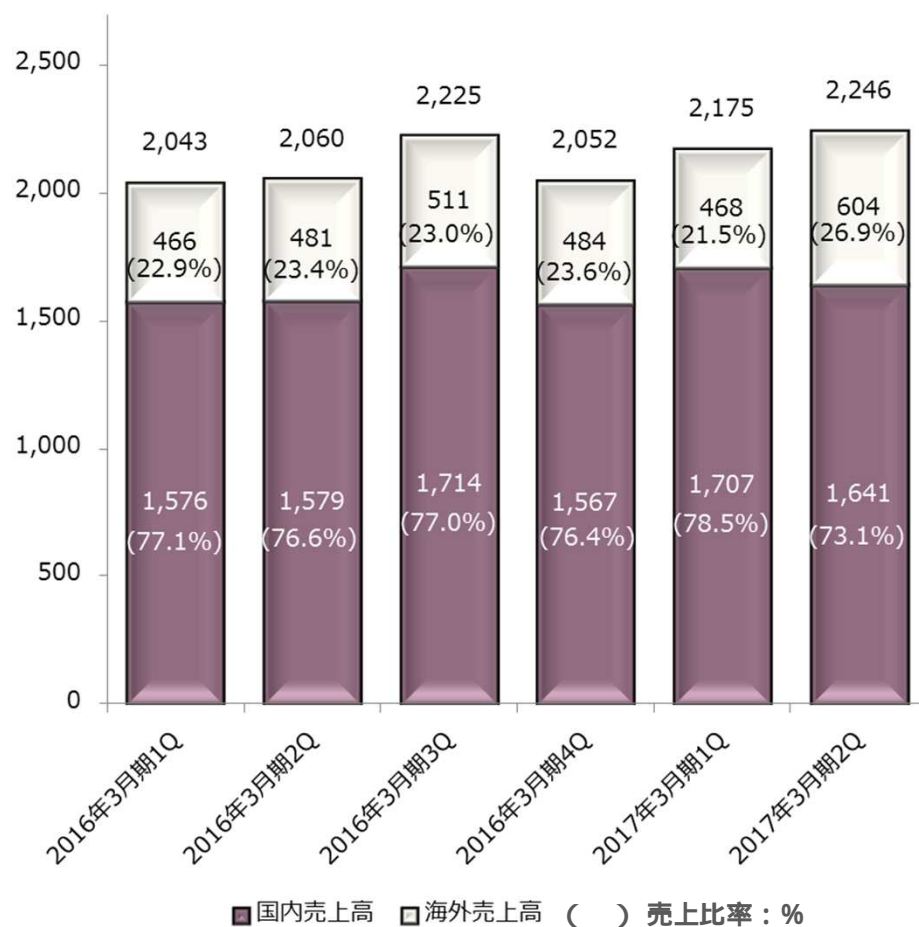
製品別では、エンドミル(6mm以下)が前年同期比11.5%、前四半期比でも6.8%の増加となり、他の製品区分に比べ高い伸びをみせた。

この結果、小径比率は73.3%と2015年3月期2Q(73.3%)に並ぶ高い水準となった。

# 四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

## 国内・海外売上高の推移

（百万円）



海外売上高は604百万円と好調。ただし、最も量の多い中国向けが日進工具香港の取り扱いとなっており、連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生するため、4-6月の水準が高かったことに起因している。

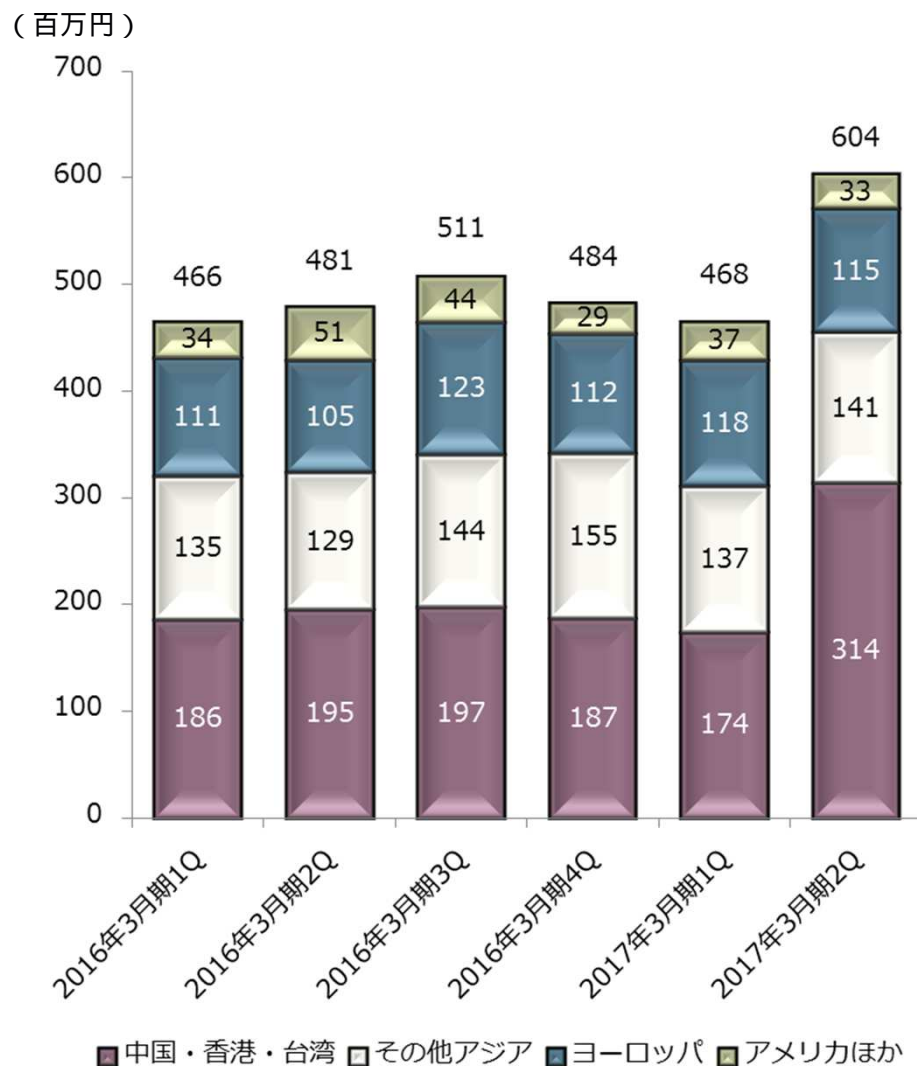
国内売上高は前年同期比3.9%増加の1,641百万円。車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされものの、スマートフォンの新機種向けの一巡や夏季休暇の影響等から、前四半期比では3.8%の減少となった。

これらにより、海外売上比率は前四半期の21.5%から26.9%へ5.4ポイントアップ。



# 四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

## 海外地域別売上高の推移



海外の地域別売上高では、中国や東南アジアが伸びたものの、ヨーロッパ及びアメリカは伸び悩みとなった。

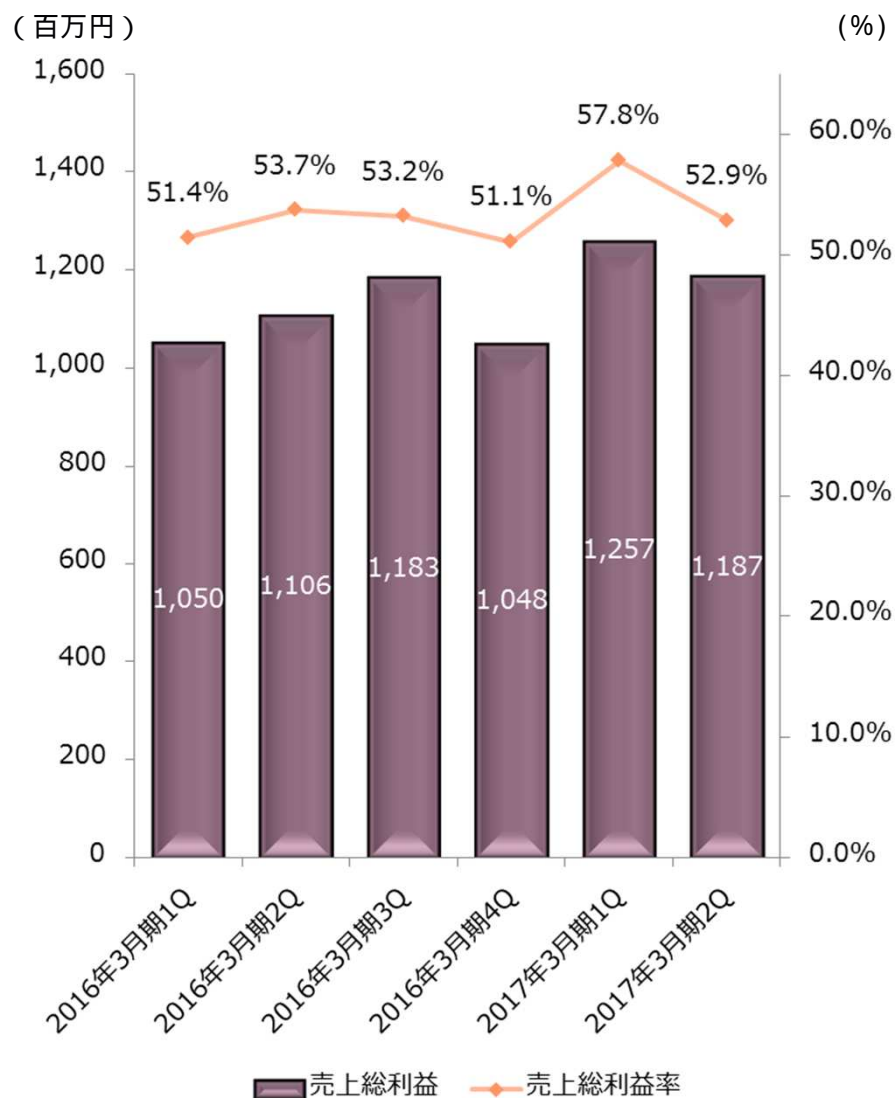
中国・香港・台湾ではスマートフォン向けのウェートが大きいですが、中国向けの販売を行う日進工具香港では、連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生するため、連結対象時期（2016年4月～6月）において、スマートフォンの新機種向けの需要が急増し、前年同期比+61.2%、前四半期比+79.8%と大きく拡大した。

東南アジアはタイを中心に自動車関連向け等により若干の増加となった。

ヨーロッパは落ち着いた動きが継続、アメリカほかは絶対量が少なく、特定のユーザーの動きに左右される面もあるが、低調な推移となっている。

# 四半期業績推移（売上総利益の推移）

## 売上総利益と売上総利益率の推移

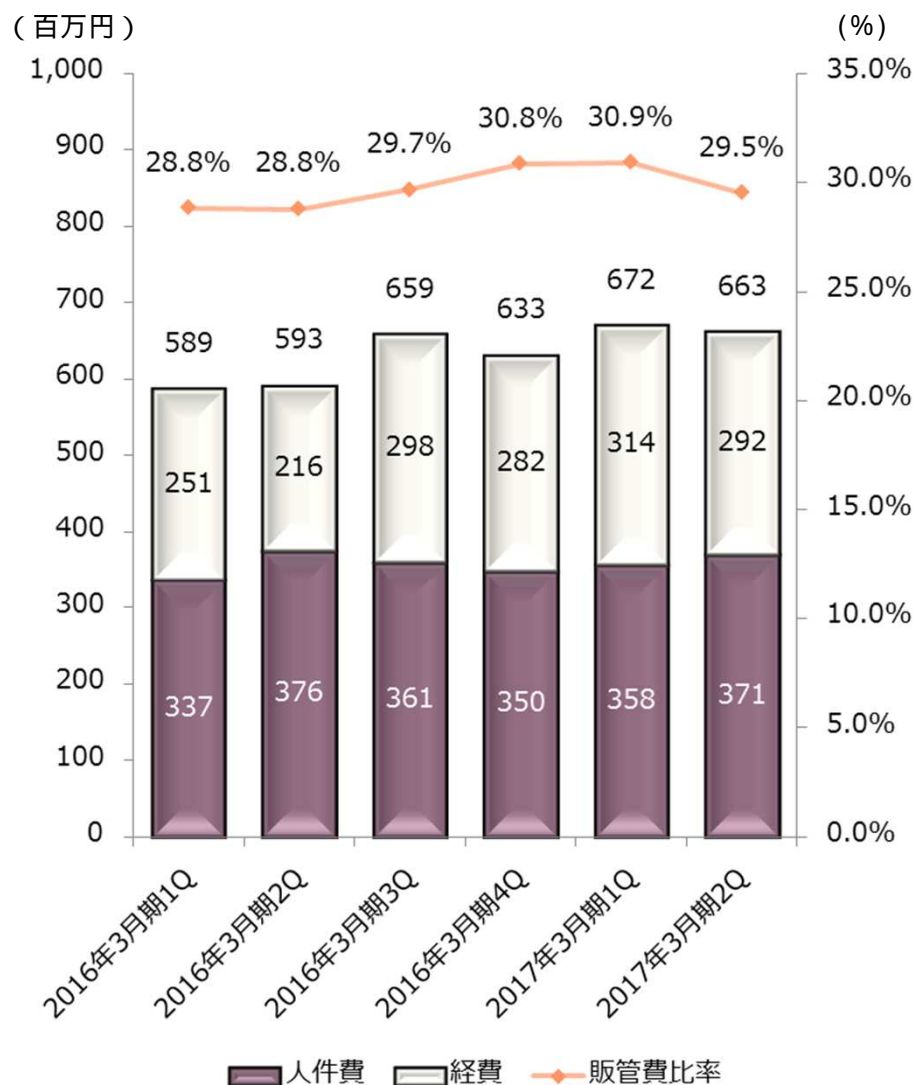


前四半期（4-6月）が日進工具香港の連結に伴う特殊要因から、原価率が低めとなったこともあり、当四半期（7-9月）は売上高が3.2%増加したにも関わらず、売上総利益は1,187百万円、前四半期比5.6%の減少となった。

売上原価の内訳では、夏季休暇による生産数量減から、材料費はマイナスとなったが、賞与引当金の積み増しによる労務費の上昇や、工場消耗品費等の製造経費の増加から、売上原価が同15.4%増加したため、売上総利益率は52.9%と前四半期に比べ4.9ポイント低下した。

# 四半期業績推移（販管費の推移）

## 販管費と販管費比率の推移



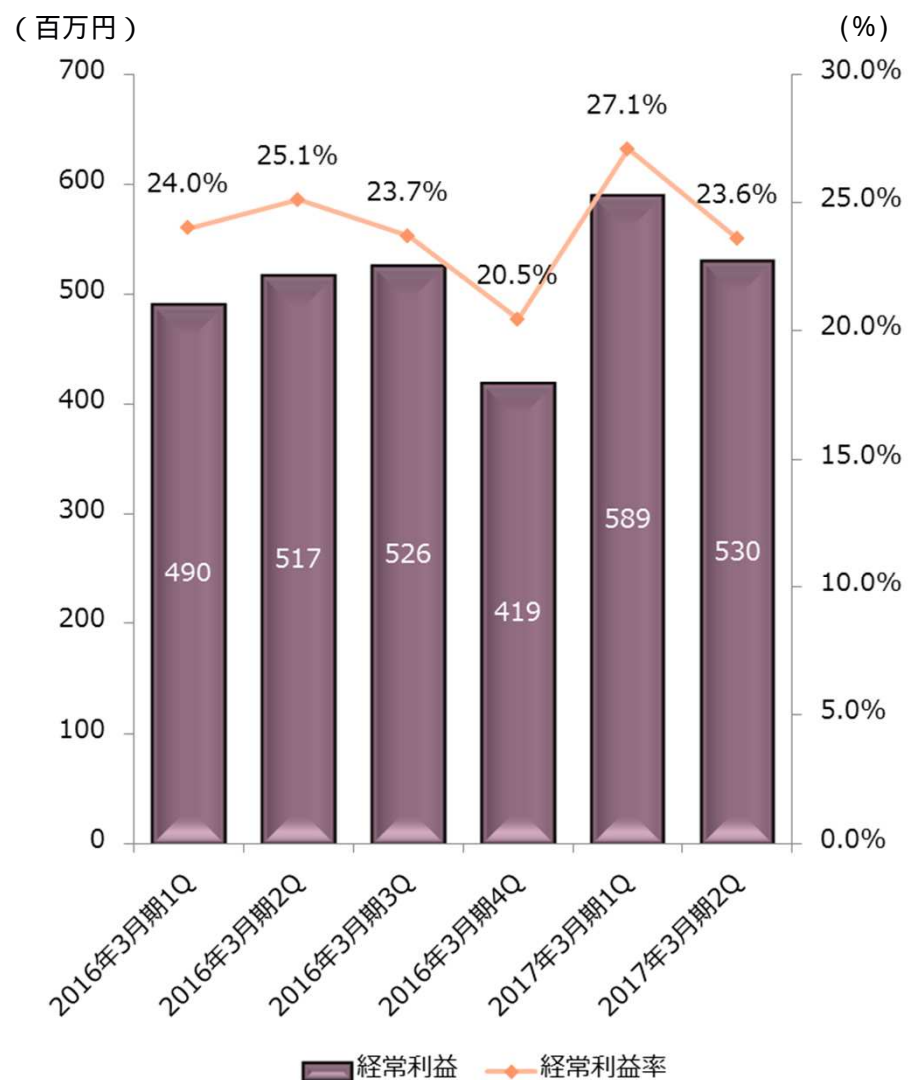
販売管理費では、人件費は賞与引当金の積み増し等から前四半期比3.5%増の371百万円。

一方、一般経費は7-9月において大きな展示会が無かったこと等から、同7.0%減の292百万円。  
販売管理費全体では、同1.4%減の663百万円。

このため、売上高販管費比率は29.5%と、前四半期に比べ1.4ポイント低下した。

# 四半期業績推移（経常利益の推移）

## 経常利益と売上高経常利益率の推移



売上高は前四半期に比べ3.2%の増加となったが、売上原価の上昇が同15.4%となったため、売上総利益は同5.6%の減少となった。

販売管理費は同1.4%低下したものの、売上総利益の減少により、営業利益は同10.5%減の524百万円となった。

この結果、経常利益も同10.0%減の530百万円。

これにより、連結での売上高経常利益率は23.6%と前四半期に比べ3.5ポイント低下した。

## 業績予想見通し

(百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,382	8,480	+1.2%	自動運転等の進展により車関係の需要は期待できる一方、主力スマートフォンの2016年モデルはやや低調との見方もあり、全体として下期はやや伸び悩むと想定。
営業利益	1,914	1,940	+1.3%	売上高に連動して若干の増加を想定。
経常利益	1,954	1,980	+1.3%	同上
当期純利益	1,342	1,350	+0.5%	同上
設備投資額	1,295	706	-45.5%	前期は新工場棟建設で増えたが、今期は通常の設定投資のペースに戻る。
減価償却費	505	635	+25.9%	前期の新工場棟建設や設備投資強化の影響が今期より本格化する。
EPS	214.76円	215.93円	+0.5%	
1株当り配当金	50円	70円	+40.0%	利益は微増に留まる見込みであるが、株主還元強化の一環として増配を予定。

## 第2四半期における進捗状況

(百万円)

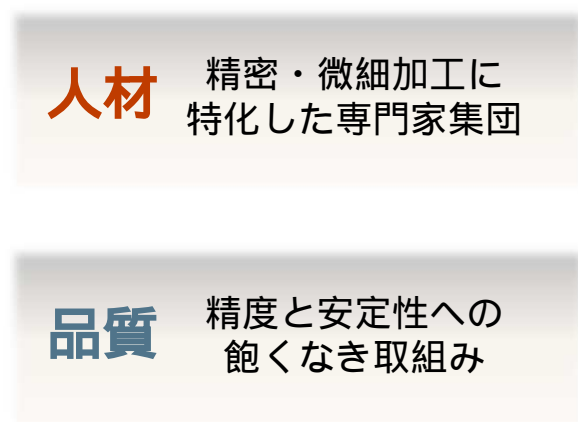
	2017年3月期 2Q累計	上期予想	進捗率	通期予想	進捗率
売上高	4,421 ( +7.7% )	4,320 ( +5.3% )	102.4%	8,480 ( +1.2% )	52.1%
営業 利益	1,109 ( +13.8% )	1,050 ( +7.7% )	105.6%	1,940 ( +1.3% )	57.2%
経常 利益	1,119 ( +11.1% )	1,070 ( +6.2% )	104.6%	1,980 ( +1.3% )	56.5%
四半期 純利益	751 ( +12.1% )	730 ( +8.9% )	102.9%	1,350 ( +0.5% )	55.7%

( )内は前年同期比増減率

# 2017年3月期の重点戦略



**連結売上高84億円の達成  
と  
経常利益率20%の確保**



**生産**

自動化の推進  
製造技術向上による  
更なる高精度化の実現

**販売**

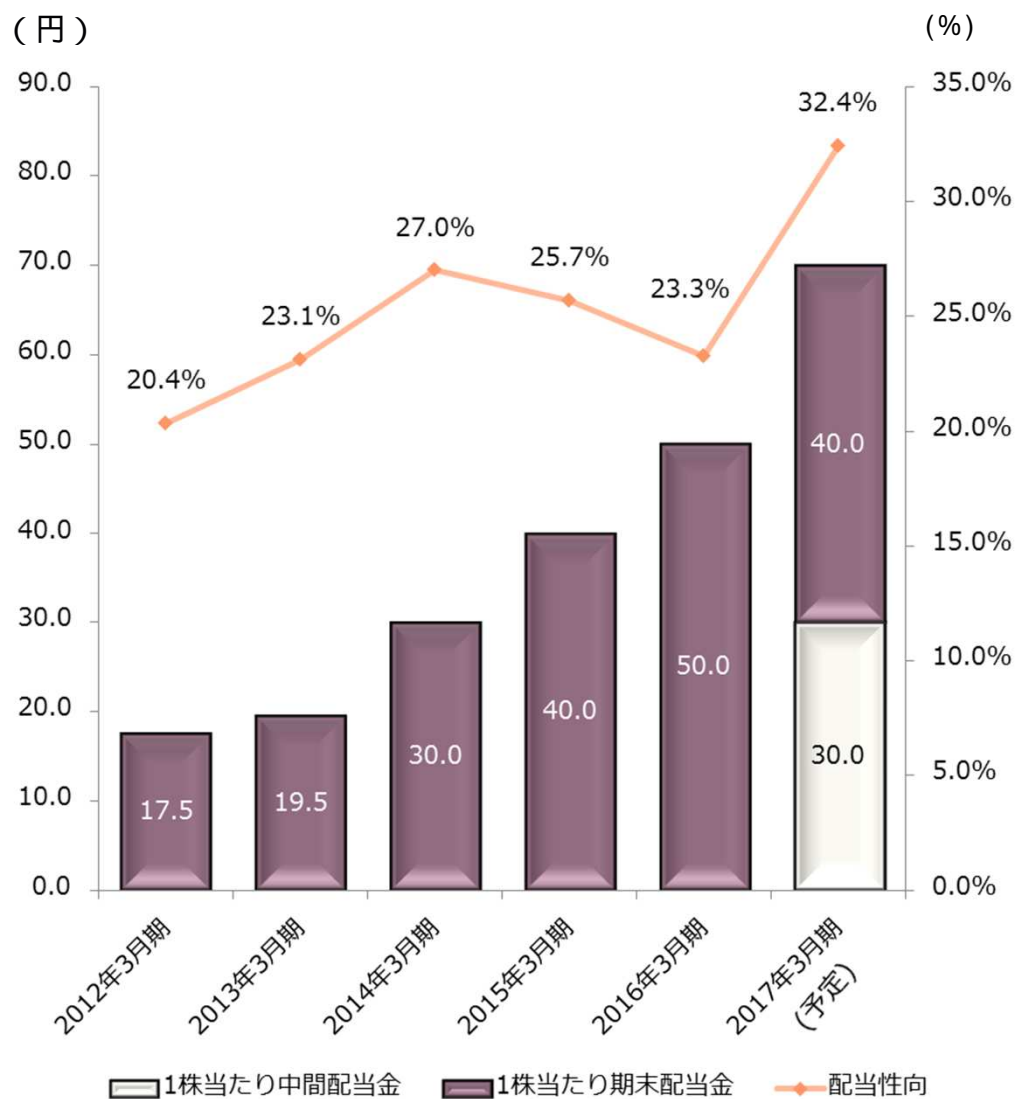
新規ユーザーの開拓  
既存ユーザーの深耕  
海外市場の拡大

**開発**

画期的な高付加価値製品の  
開発

**持続的成長の実現**

# 配当予想（株主還元について）



2014年10月1日付実施の株式分割の影響を考慮しています

## 業績に応じた利益還元 （配当性向20%を目処）

- 2016年3月期の配当金は10円増配となる1株当たり50円。
- 2017年3月期より中間配当を実施  
1株当たり年間配当金は70円を予定  
（中間配当金30円、期末配当金40円）
- 業績予想に対する配当性向は32.4%

自社株買いではなく  
配当にウェイトを置く方針



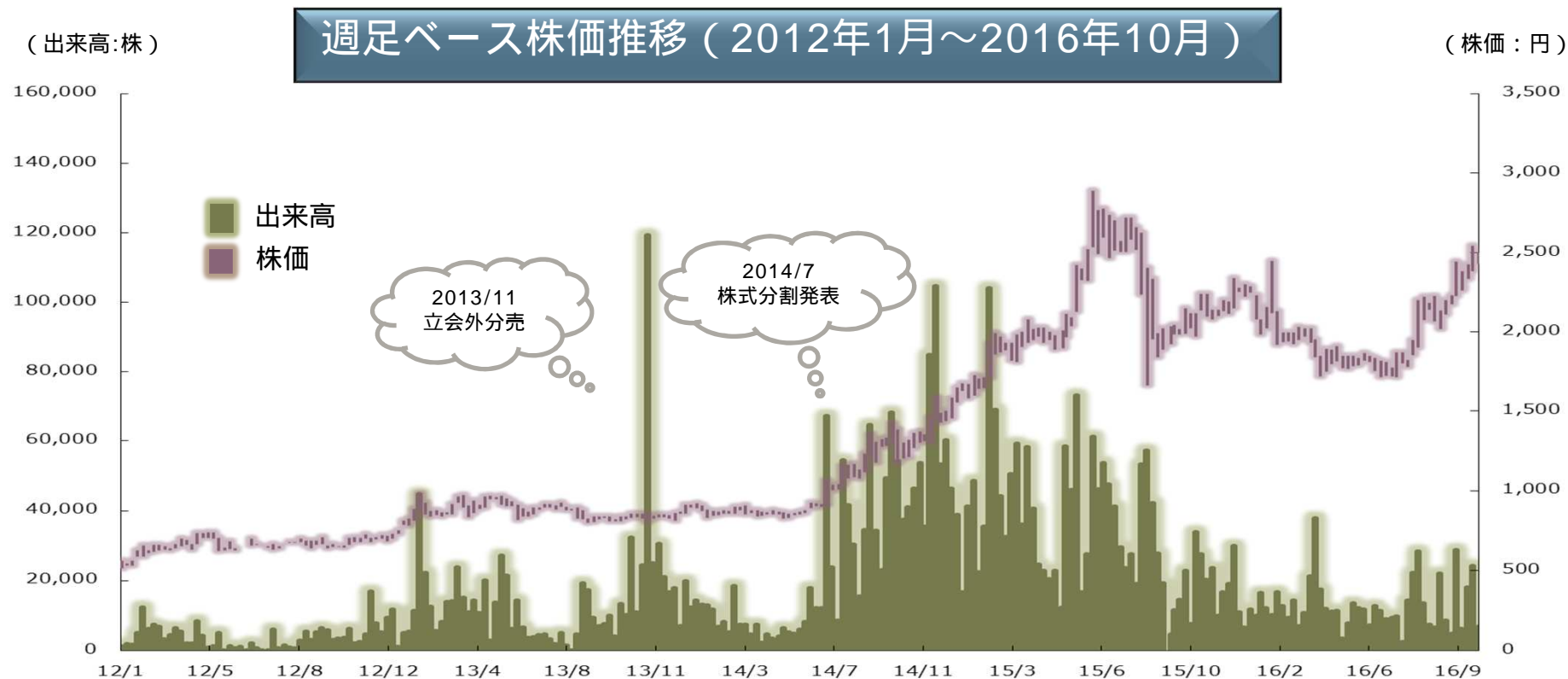
# 過去5年間の業績と主要データ推移

(百万円)

	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
売上高	5,781	5,997	6,418	7,402	8,382
営業利益(率)	962 (16.7%)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)
経常利益(率)	1,032 (17.9%)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)
当期純利益(率)	535 (9.3%)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)
有利子負債額	0	0	0	0	0
純資産額	6,678	7,106	7,680	8,480	9,569
総資産額	7,906	8,297	9,075	10,339	11,371
自己資本比率	84.5%	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%
設備投資額	1,051	1,001	469	612	1,295
減価償却費	471	563	534	474	505
1株当たり配当金	17.5円	19.5円	30円	40円	50円
従業員数	232人	281人	284人	281人	280人

2014年10月1日付実施の株式分割の影響を考慮しています

# 株価推移とバリュエーション



## バリュエーション (2016年10月26日現在)

売買単位：100株

時価総額：155億円

ROE (16/3期実績)：14.9%

単元株価格：24万8,600円

PER (17/3期予想)：11.51倍

PBR (16/3期実績)：1.62倍

# IR情報サイトのご案内



## メニュー表示

「トップメッセージ」、「よくあるご質問」、「IRお問い合わせ先」メニュー名クリックで各ページに移動します  
それ以外はメニューにカーソルを合わせると各メニューの詳細ページ項目が表示されます  
(項目クリックで該当ページに移動できます)

## 投資家の皆様へ

投資家の皆様に特にご覧頂きたいページをピックアップしています

## IRニュース

適時開示情報や説明会のお知らせ、レポート更新など最新のIR情報を掲載しています  
「IRニュース一覧へ」をクリックすると、表示されていない過去のIRニュースをご覧いただけます

## メニュー項目

ワンクリックで各メニューの詳細ページに移動できます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

## お問い合わせ

# 日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL	:	03-3763-5672
FAX	:	03-3764-8225
E-mail	:	ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、  
確約や保証を与えるものではありません。  
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。